

「消防団の大切さ」

長島町立獅子島中学校一年竹口そら

「台風八号が九州に近づいています。

警戒して下さい。」家の防災無線機のスピーカーから聞こえてきます。窓の外を見てみると、草や木が大雨に打たれ、大きく揺れて、雷も鳴っています。すると、父の携帯にメールがきました。町の消防署からです。

「午後一時から避難所を開放して下さい。」

私の父は、獅子島分団の分団長をしています。各班長と連絡をとりあって高齢者の方々を避難させました。今度は電話が鳴りました。「大雨で、山の崖が崩れている。」

父はヘルメットをかぶって急いで出て行きました。私は、「大丈夫かな。」と心配になりました。一時間すると父がびしょぬれで帰ってきました。「どうだった。」私は帰ってきた父にすぐにたずねました。「少しだったからよかったよ。」と答えてくれました。崖崩れの現場を見た後、道路に折れた木や土砂が流れていないか島を一周して確認しましたそうです。

私が住んでいる獅子島は離島で、消防署もない地域なので、他の消防団より大変なんだそうです。火災や自然災害の時

はもちろんです。急病人が出た時は、チャーター船や救急車までのはん送をしたり、最悪の場合は心臓マッサージを救急車に渡すまでやり続けるそうです。その為、家の仕事や家族をぎせいにし、出勤要請が出たら消防団の活動に出て行きます。

その時は、父に代わって祖父が家の仕事をしてくれます。父はとても感謝しているそうです。「家族の協力があるからこそ、消防団活動をがんばることができるとよ。」

父は、よく私に話をしてくれます。

島の安全は、消防団が守ってくれます。

今回の台風は、たいした被害もなく、ほととしましたが、獅子島内は高齢者も多くなり、想定外の災害など、いつ、何が起こるかわかりません。離島に住んでいるからこそ、獅子島消防団の大切さや有り難さがわかり、父の大変さやがんばりを感ずる一日となりました。